



Red Hat Insights 2022

Advisor サービスレポートの生成

ガイド

Red Hat Insights 2022 Advisor サービスレポートの生成

ガイド

Enter your first name here. Enter your surname here.

Enter your organisation's name here. Enter your organisational division here.

Enter your email address here.

法律上の通知

Copyright © 2022 | You need to change the HOLDER entity in the en-US/Generating_Advisor_Service_Reports.ent file |.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

目次

多様性を受け入れるオープンソースの強化	3
RED HAT ドキュメントへのフィードバック	4
第1章 INSIGHTS FOR RHEL アドバイザーサービスレポートの概要	5
第2章 INSIGHTS FOR RHEL アドバイザーサービスデータのエキスポート	6
2.1. ADVISOR サービスを使用したレポートのエキスポート	6
2.2. API を使用した ADVISOR サービスデータのエキスポート	6
第3章 INSIGHTS FOR RHEL アドバイザーサービス週次レポートのメールサブスクリプション	8
3.1. ADVISOR サービスの週次レポートメールのサブスクライブ	8
第4章 INSIGHTS FOR RHEL アドバイザーサービスのエグゼクティブレポート	10
4.1. ADVISOR サービスのエグゼクティブレポートのダウンロード	10
第5章 通知およびインテグレーションの有効化	11

多様性を受け入れるオープンソースの強化

Red Hat では、コード、ドキュメント、Web プロパティにおける配慮に欠ける用語の置き換えに取り組んでいます。まずは、マスター (master)、スレーブ (slave)、ブラックリスト (blacklist)、ホワイトリスト (whitelist) の 4 つの用語の置き換えから始めます。この取り組みは膨大な作業を要するため、今後の複数のリリースで段階的に用語の置き換えを実施して参ります。詳細は、[Red Hat CTO である Chris Wright のメッセージ](#)をご覧ください。

RED HAT ドキュメントへのフィードバック

弊社のドキュメントに関するご意見やご感想をお寄せください。フィードバックを提供するには、ドキュメントのテキストを強調表示し、コメントを追加します。

前提条件

- Red Hat カスタマーポータルにログインしている。
- Red Hat カスタマーポータルでは、このドキュメントは **Multi-page HTML** 表示形式です。

手順

フィードバックを提供するには、以下の手順を実施します。

1. ドキュメントの右上隅にある **フィードバック** ボタンをクリックして、既存のフィードバックを確認します。



注記

フィードバック機能は、**マルチページ HTML** 形式でのみ有効です。

2. フィードバックを提供するドキュメントのセクションを強調表示します。
3. ハイライトされたテキスト近くに表示される **Add Feedback** ポップアップをクリックします。ページの右側のフィードバックセクションにテキストボックスが表示されます。
4. テキストボックスにフィードバックを入力し、**Submit** をクリックします。ドキュメントに関する問題が作成されます。
5. 問題を表示するには、フィードバックビューで問題リンクをクリックします。

第1章 INSIGHTS FOR RHEL アドバイザーサービスレポートの概要

advisor サービスを使用すると、以下の方法で Red Hat Enterprise Linux (RHEL) インフラストラクチャーのステータスを共有できます。

- 影響を受ける RHEL システムの推奨事項を示す CSV または JSON ファイル形式でレポートをエクスポートおよびダウンロードし、その情報をストレージ関係者と共有します。
- advisor レポートの週次メールをサブスクライブして、RHEL 環境の正常性の概要を表示します。
- エグゼクティブレポートをダウンロードして、インフラストラクチャーのエグゼクティブオーディエンスと資料を共有します。

これらの方法により、ユーザーやステークスホルダーがインフラストラクチャーの正常性を評価し、適切に計画したり、動作したりできるようになります。

第2章 INSIGHTS FOR RHEL アドバイザーサービスデータのエクSPORT

advisor サービスを使用する場合は、登録した各システムに影響する推奨事項を示す JSON または CSV 形式でレポートをエクスポートできます。エクスポートしたレポートには以下の情報が含まれます。

- ホスト名
- ホストのインベントリ UUID
- RHEL のバージョン
- このホストから insights for RHEL への最後のデータアップロードの日時
- ホストに影響する推奨事項のタイトル
- この推奨事項についてのソリューションへのリンク
- この推奨事項が直面するリスクの合計 (1 から 4 まで、1 は低リスク、4 は高リスクを意味します)
- 登録したシステムでこの推奨事項がアクティブである可能性あり (1 から 4 = 1 まで)、4 は非常にプロアクティブにできることを意味します。
- この推奨事項の公開日
- このホストのスキャン結果へのリンク

2.1. ADVISOR サービスを使用したレポートのエクスポート

advisor サービスを使用してレポートをエクスポートするには、以下の手順を実行します。

1. 必要に応じて [Red Hat Enterprise Linux > Advisor > Recommendations](#) ページに移動し、ログインします。
2. 必要に応じてフィルターを適用して結果を絞り込みます。
3. ツールバーの検索ボックスの右側の **Download** ダウンロードアイコンをクリックします。
4. 希望に応じて **Export to CSV** または **Export to JSON** を選択します。
5. ダイアログボックスで **Open with** を選択し、ファイルを開くアプリケーションを指定するか、**Save File** をクリックして **OK** をクリックします。

2.2. API を使用した ADVISOR サービスデータのエクSPORT

以下のいずれかの方法で、サービス API を使用してデータをエクスポートします。

- CSV ファイルタイプの場合
 - 要求 URL:
<https://cloud.redhat.com/api/advisor/v1/export/hits.csv>
 - Curl

```
curl -X GET "https://cloud.redhat.com/api/insights/v1/export/hits.csv" -H "accept: */*"
```

- JSON ファイルタイプの場合

- 要求 URL:

- <https://cloud.redhat.com/api/advisor/v1/export/hits.json>

- Curl

```
curl -X GET "https://cloud.redhat.com/api/insights/v1/export/hits.json" -H "accept: application/json"
```

Insights for Red Hat Enterprise Linux の全サービスの API ドキュメントは、<https://cloud.redhat.com/docs/api> で参照できます。

第3章 INSIGHTS FOR RHEL アドバイザーサービス週次レポート のメールサブスクリプション

advisor サービスの週次レポートメールは環境の正常性を迅速に表示します。メールのサブスクライブは任意ですが、Advisor サービスの設定を使用する必要があります。メールはまだ目付かないので、含まれるすべての情報は一目で利用することができます。

メールは、日曜日の夜 (米国東部標準時間、UTC-05:00。東部夏時間UTC-4:00) ごとに、個々の Red Hat カスタマーポータルユーザーアカウントに関連するメールアドレスに送信され、情報を得た状態で週を始めることができます。オプトインすると、サブスクリプションの優先度はユーザー自身にのみ適用され、組織内の全員には適用されません。

メールは、アカウントに登録されているシステムに関する以下の情報を提供します。

- インフラストラクチャーにおける重要なルールヒット数
- インフラストラクチャーにおける影響を受けるシステムの数
- インフラストラクチャーに影響する推奨事項の合計数

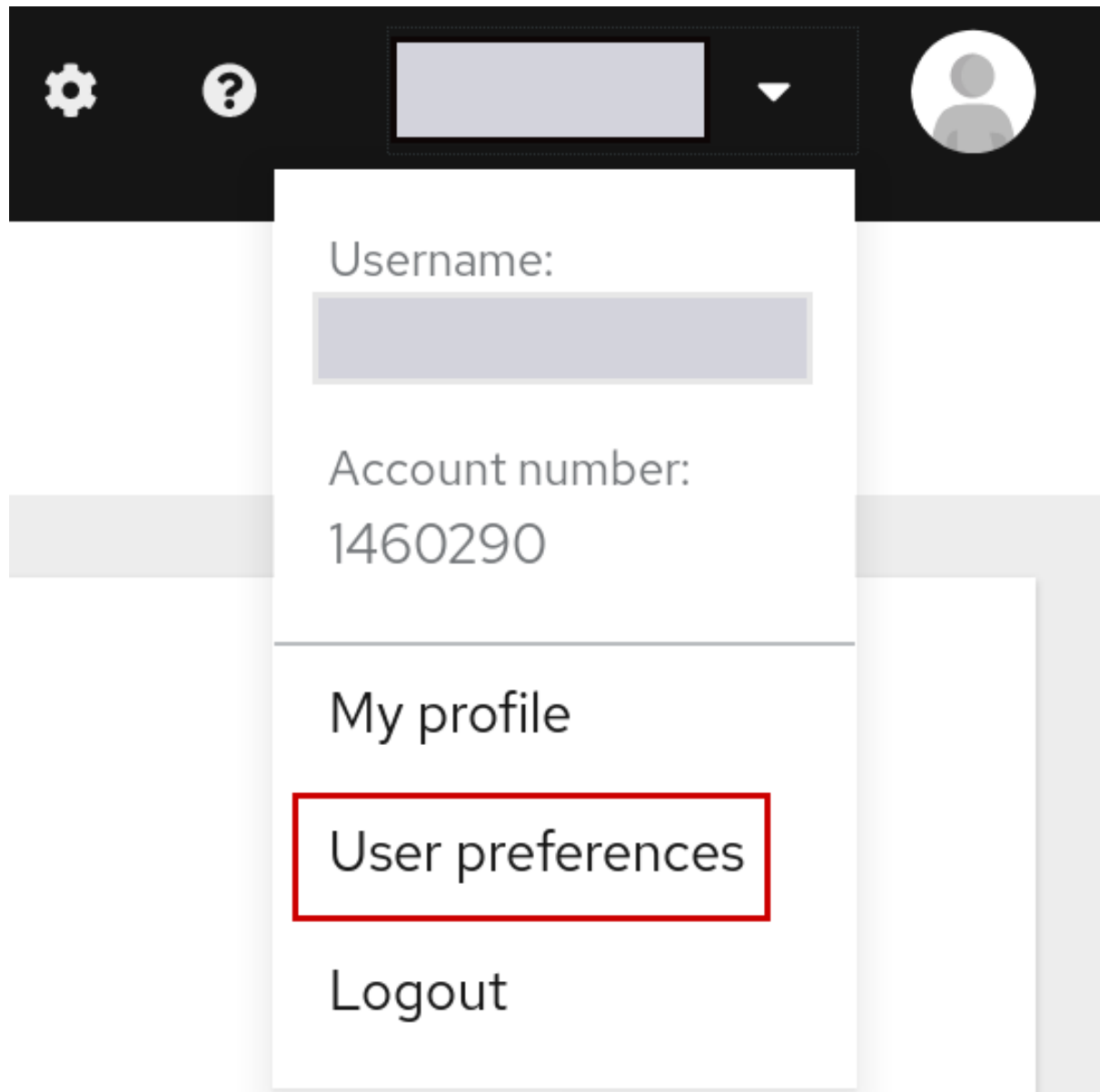
3.1. ADVISOR サービスの週次レポートメールのサブスクライブ

メールを受信するには、週次メールをサブスクライブする必要があります。

週次レポート電子メールをサブスクライブする手順

以下の手順に従って、advisor の週次レポートメールをサブスクライブします。

1. 必要に応じて [Red Hat Enterprise Linux > Advisor > Recommendations](#) ページに移動し、ログインします。
2. 名前の右側にある下矢印をクリックして、**User preferences** をクリックします。



3. **Email subscription** 見出しの **Insights** の横にある **Weekly Report** チェックボックスにチェックを入れます。

Email subscriptions

Select the cloud.redhat.com emails you want to receive.

Insights

Weekly Report

Subscribe to this account's Insights Weekly Report email

4. **Submit** をクリックします。

Red Hat Insights noreply@redhat.com という送信元から毎週日曜日の夜に、「**Weekly Insights summary report**」という件名のメールが届きます。

サブスクリプション解除するには、上記の手順に従い、**Weekly Report** チェックボックスの選択を解除します。

第4章 INSIGHTS FOR RHEL アドバイザーサービスのエグゼクティブレポート

インフラストラクチャーのステータスを要約したエグゼクティブオーディエンス向けデザインのハイレベルレポートをダウンロードできます。エグゼクティブレポートとは、以下の情報を含む1、2ページのPDF ファイルです。

- 重大度別に特定された推奨事項
- カテゴリー別の最近検出された推奨事項
- 最も高い合計リスクと危険にさらされるシステムの最大数に基づいた、インフラストラクチャーでの上位3件の推奨事項

4.1. ADVISOR サービスのエグゼクティブレポートのダウンロード

以下の手順に従って、advisor サービスからエグゼクティブレポートをダウンロードします。

手順

1. 必要に応じて [Red Hat Enterprise Linux > Advisor > Recommendations](#) ページに移動し、ログインします。
2. Recommendations ページの右上にある **Download executive report** リンクをクリックします。
3. ファイルを開くか、保存するかを選択し、**OK** をクリックします。
4. ダウンロード済みの場合は、ダウンロードしたファイルの場所でPDF ファイルを確認してください。

第5章 通知およびインテグレーションの有効化

Red Hat Hybrid Cloud Console の通知サービスを有効にして、アドバイザーサービスが問題を検出し、推奨事項を生成するたびに通知を送信できます。通知サービスを使用すると、推奨事項を知るために Red Hat Insights for RHEL のダッシュボードで通知を繰り返し確認する必要がなくなります。

たとえば、アドバイザーサービスが推奨事項を生成するたびにメールメッセージを自動送信するように通知サービスを設定できます。

通知サービスを有効にするには、以下の3つの主要なステップが必要です。

- まず、組織管理者は通知管理者ロールを持つユーザーアクセスグループを作成し、そのグループにアカウントメンバーを追加します。
- 次に、通知管理者は通知サービス内のイベントの動作グループを設定します。動作グループは、通知ごとに配信方法を指定します。たとえば、動作グループは、メール通知をすべてのユーザーに送信するか、組織の管理者のみ送信するかを指定できます。
- 最後に、イベントからメール通知を受信するユーザーは、各イベントの個別メールを受け取るようにユーザー設定する必要があります。

メールメッセージの送信に加え、他の方法でイベントデータを送信するように通知サービスを設定できます。

- 認証済みクライアントを使用して Red Hat Insights API にイベントデータをクエリーする
- Webhook を使用して受信要求を受け入れるサードパーティーのアプリケーションにイベントを送信する
- Splunk などのアプリケーションと通知を統合してアドバイザーの推奨事項をアプリケーションダッシュボードにルーティングする

関連情報

- アドバイザーの推奨事項に関する通知の設定方法について、詳しくは [Red Hat Insights Notifications](#) を参照してください。